原　著

# サラブレッド種雌馬における妊娠期各週の血中プロジェステロン濃度の変化および早期胚・胎子死滅7例との比較

南保泰雄[1)†]　舘江弘明[2)]　琴寄泰光[1)]　駒野道夫[3)]　田中秀俊[2)]

1）日本中央競馬会日高育成牧場（〒057h0171　浦河郡浦河町西舎535h13）
2）㈲メジロ牧場（〒049-5832　虻田郡洞爺湖町成香）
3）日本軽種馬協会胆振種馬場（〒059-0901　白老郡白老町字社台335）

（2008年9月1日受付・2009年1月19日受理）

## 要　　約

馬の正常妊娠期における各週の血中プロジェステロン（$P_4$）濃度の変化を時間分解蛍光免疫測定法（TR-FIA）により解析し，早期胚・胎子死滅7例と比較した．妊娠前半期の$P_4$濃度は妊娠2週および7～15週をピークとする2相性の変化を示し，初期黄体および副黄体の形成時期とほぼ一致した．妊娠後半期は23週以降に3～4ng/m$l$の低値で推移した後，分娩前5週からふたたび上昇し，分娩後に急激に低下した．5週付近で胚死滅となった4例の血中$P_4$濃度は0～4週において正常例と有意差を認めなかったが，9週付近で胎子死滅に至った3例では，その2週前においてすでに$P_4$濃度が正常例より有意に低かった．胚・胎子死滅後は黄体が退行せず，$P_4$濃度が3～6ng/m$l$の値で5週間以上維持された．TR-FIAによる馬妊娠期の$P_4$濃度測定は早期胎子死滅の予知診断に有用であることが示唆された．

――キーワード：胚死滅，胎子，妊娠，プロジェステロン，蛍光測定．
日獣会誌　62，630～635（2009）

†　連絡責任者：南保泰雄（日高育成牧場）
〒057-0171　浦河郡浦河町西舎535-13　☎0146-28-2084　FAX 0146-28-2085
E-mail : ynambo@center.equinst.go.jp